

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

令和7年度

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
はるが きた	2	◎互いの話に関心をもつことができる。(思・判・表A(1)オ) ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。((1)ア)	【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもっている。(A(1)オ)	【態】進んで友達の話に関心をもち、これまでの経験をいかして話したり応答したりしようとしている。
おはなし ききたいな	2	◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。(知・技(3)エ) ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。(思・判・表C(1)オ)	【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。((3)エ)	【思・判・表】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ)	【態】積極的にいろいろな本を手に取り、これまでの経験をいかして読み聞かせを楽しもうとしている。
なんて いおうかな	2	◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア) ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うことができる。(知・技(1)キ) ○伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ)	【知・技】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使っている。((1)キ)	【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(A(1)ウ)	【態】経験を基に積極的に言うことを考え、学習課題に沿って自分の考えを伝えようとしている。

かく こと たのしいな	1	◎平仮名を読み、書くことができる。 (知・技(1)ウ) ・姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書くことができる。(知・技(3)ウ)	【知・技】 ・平仮名を読み、書いている。((1)ウ) ・姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書いている。((3)ウ)		【態】正しい姿勢や鉛筆の持ち方で書くことに粘り強く取り組み、自分なりに、字を書く際に気をつけたいことを見つけようとしている。
どうぞ よろしく	3	◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア) ○経験したことから書くことを見つけ、伝えたい事柄を明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ・丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うことができる。(知・技(1)キ)	【知・技】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使っている。((1)キ)	【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ・「書くこと」において、経験したことから書くことを見つけ、伝えたい事柄を明確にしている。(B(1)ア)	【態】積極的に自分の名前を書いたり好きなものを考えたりし、これまでの経験をいかして友達と交流しようとしている。
こんな もの みつけたよ	2	◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア) ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うことができる。(知・技(1)キ)	【知・技】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使っている。((1)キ)	【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア)	【態】紹介したい事柄を積極的に選び、学習課題に沿って見つけたものをより分かりやすく紹介しようとしている。
うたに あわせて あいうえお	2	◎姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。(知・技(1)イ) ○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。(知・技(3)イ)	【知・技】 ・姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。((1)イ) ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。((3)イ)		【態】進んで姿勢や口形、発声や発音に注意し、学習課題に沿って音読しようとしている。

こえに だして よもう	1	◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク)	【知・技】語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。((1)ク)	【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ)	【態】進んで詩に描かれた様子を想像し、これまでの学習をいかして音読しようとしている。
よく きいて、はなそう	2	◎話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。(思・判・表A(1)エ) ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ)	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。((1)ア)	【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(A(1)ウ) ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A(1)エ)	【態】興味をもって進んで友達の話聞き、より伝わる話し方を考えながら、みんなに知らせようとしている。
ことばを さがそう	2	◎音節と文字との関係に気づくことができる。(知・技(1)イ) ◎身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)	【知・技】 ・音節と文字との関係に気づいている。((1)イ) ・身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。((1)オ)		【態】語句の音節と文字との関係を積極的に理解し、これまでの学習をいかして言葉を集めようとしている。
はなの みち	6	◎語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク) ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ○敬体で書かれた文章に慣れることができる。(知・技(1)キ)	【知・技】 ・敬体で書かれた文章に慣れている。((1)キ) ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。((1)ク)	【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ)	【態】興味をもって進んでお話の内容を捉え、学習課題に沿って友達と協力して音読しようとしている。

としょかんへ いこう	2	◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。(知・技(3)エ)	【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。((3)エ)		【態】積極的に図書館について知ろうとし、学習課題に沿って読みたい本を見つけようとしている。
かきと かぎ	2	◎平仮名を読み、書くことができる。(知・技(1)ウ) ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)	【知・技】平仮名を読み、書いている。((1)ウ)	【思・判・表】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	【態】進んで濁音を含む言葉を見つけ、これまでの学習をいかして文字で表そうとしている。
ぶんを つくろう	4	◎文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ) ○句点の打ち方を理解して文の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ○語と語との続き方に注意することができる。(思・判・表B(1)ウ)	【知・技】 ・句点の打ち方を理解して文の中で使っている。((1)ウ) ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。((1)カ)	【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。(B(1)ウ)	【態】語と語との続き方を丁寧に確かめながら、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
ねこと ねっこ	2	◎促音の表記、助詞の「を」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ○語と語との続き方に注意することができる。(思・判・表B(1)ウ)	【知・技】促音の表記、助詞の「を」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使っている。((1)ウ)	【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。(B(1)ウ)	【態】進んで促音や濁音のある言葉を見つけようとし、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。

わけを はなそう	2	◎相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。(思・判・表A(1)イ) ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア)	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。((1)ア)	【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。(A(1)イ)	【態】話す事柄の順序を進んで考えながら、これまでの学習や経験をいかして考えとわけを話そうとしている。
おばさんと おばあさん	2	◎長音の表記、助詞の「へ」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ○語と語との続き方に注意することができる。(思・判・表B(1)ウ)	【知・技】長音の表記、助詞の「へ」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使っている。((1)ウ)	【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。(B(1)ウ)	【態】進んで長音のある言葉を見つけようとし、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
あいうえおで あそぼう	3	◎平仮名を読み、書くことができる。(知・技(1)ウ) ◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。(知・技(3)イ) ○姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。(知・技(1)イ)	【知・技】 ・姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。((1)イ) ・平仮名を読み、書いている。((1)ウ) ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。((3)イ)		【態】進んで平仮名の五十音を確かめ、これまでの学習をいかして言葉遊びを楽しもうとしている。
つぼみ	8	◎事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク) ○文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。(思・判・表C(1)ウ)	【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。((1)カ) ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。((1)ク)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア) ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ)	【態】積極的に説明の順序を捉えながら文章を読み、学習課題に沿って分かったことや考えたことを伝えようとしている。

おもちゃと おもちゃ	2	◎拗音の表記、句点の打ち方を理解し、文の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ○語と語との続き方に注意することができる。(思・判・表B(1)ウ)	【知・技】拗音の表記、句点の打ち方を理解して、文の中で使っている。((1)ウ)	【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。(B(1)ウ)	【態】進んで拗音のある言葉を見つけようとし、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
おおきく なった	4	◎観察したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。(思・判・表B(1)ア) ○身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使うことができる。(知・技(1)オ)	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っている。((1)オ)	【思・判・表】「書くこと」において、観察したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりしている。(B(1)ア)	【態】植物をさまざまな観点から積極的に観察し、これまでの学習をいかして観察したことを記録しようとしている。
おおきな かぶ	6	◎語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク) ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ) ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ)	【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。((1)カ) ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。((1)ク)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ)	【態】積極的に登場人物の行動を捉え、これまでの学習をいかして音読や劇遊びをしようとしている。
はをへを つかおう	3	◎助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)	【知・技】助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解して文や文章の中で使っている。((1)ウ)	【思・判・表】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	【態】進んで助詞の使い方を確かめながら、学習課題に沿って文を作ろうとしている。

すきな こと、なあと	7	◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア) ◎語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れることができる。(知・技(1)キ) ○相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。(思・判・表A(1)イ)	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。((1)ア) ・丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。((1)キ)	【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。(A(1)イ) ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	【態】粘り強く伝えたいことや表し方を考え、これまでの学習をいかして自分が好きなものとその理由を紹介しようとしている。
おむすび ころりん	5	◎昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク)	【知・技】 ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。((1)ク) ・昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。((3)ア)	【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ)	【態】進んで昔話の内容を捉え、これまでの学習をいかして音読しようとしている。
こんな ことが あったよ	6	◎経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ○文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)オ) ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。((1)ア)	【思・判・表】 ・「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ・「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)オ)	【態】積極的に出来事や経験を思い出し、これまでの学習をいかして日記に書こうとしている。

としょかんと なかよし	2	◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。(知・技(3)エ)	【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。((3)エ)		【態】積極的にいろいろな本を手に取り、これまでの学習をいかして本を選ぶようとしている。
こえを あわせて よもう	2	◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク)	【知・技】語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。((1)ク)	【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ)	【態】進んで詩の内容を捉え、これまでの学習をいかして音読を楽しもうとしている。
みんなに しらせよう	2	◎伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ) ○姿勢や口形、発声や発音に注意して話することができる。(知・技(1)イ) ○話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。(思・判・表A(1)エ)	【知・技】姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。((1)イ)	【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(A(1)ウ) ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A(1)エ)	【態】積極的に友達の話聞き、これまでの学習をいかして質問や感想を述べようとしている。
ことばを みつけよう	2	◎身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。((1)オ)		【態】積極的に言葉遊びに取り組み、これまでの学習をいかして自分でも言葉遊びを作成しようとしている。

やくそく	8	◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)力) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク) ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ)	【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。((1)力) ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。((1)ク)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ)	【態】進んで登場人物の行動を確認め、学習の見通しをもって声に出してお話を楽しもうとしている。
かたかなを みつけよう	2	◎片仮名を読み、書くとともに、片仮名の長音、拗音、促音、撥音などの表記を理解して文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ○語と語との続き方に注意しながら、文を書き表すことができる。(思・判・表B(1)ウ)	【知・技】片仮名を読み、書くとともに、片仮名の長音、拗音、促音、撥音などの表記を理解して文や文章の中で使っている。((1)ウ)	【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら文を書き表している。(B(1)ウ)	【態】身の回りから片仮名で書く言葉を進んで見つけ、これまでの学習をいかして簡単な文を書こうとしている。
うみの かくれんぼ	8	◎文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。(思・判・表C(1)ウ) ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)力) ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ○事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)ア)	【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。((1)力) ・事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア) ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ)	【態】粘り強く文章の中で大事な言葉を押さえながら読み、学習課題に沿って分かったことを伝えようとしている。
かずと かんじ	4	◎第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書くことができる。(知・技(1)エ) ・語と語との続き方に注意しながら文を書き表すことができる。(思・判・表B(1)ウ)	【知・技】第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書いている。((1)エ)	【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら文を書き表している。(B(1)ウ)	【態】積極的に数え方に興味をもち、これまでの学習や経験をいかして漢字を使って数え歌を書こうとしている。

くじらぐも	8	◎かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク)	【知・技】 ・かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。((1)ウ) ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。((1)ク)	【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ)	【態】積極的に想像力を広げて物語を読み、これまでの学習をいかして想像したことを友達に伝えようとしている。
まちがいを なおそう	2	◎文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正すことができる。(思・判・表B(1)エ) ○助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使っている。(知・技(1)ウ)	【知・技】助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使っている。((1)ウ)	【思・判・表】「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正している。(B(1)エ)	【態】進んで文章を見直し、これまでの学習をいかして適切な表記に正そうとしている。
しらせたいな、見せたいな	10	◎経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。(思・判・表B(1)ア) ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ○語と語や文と文との続き方に注意しながら書き表すことができる。(思・判・表B(1)ウ)	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。((1)ア) ・助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して、文や文章の中で使っている。((1)ウ)	【思・判・表】 ・「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりしている。(B(1)ア) ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら書き表している。(B(1)ウ)	【態】知らせたいものを丁寧に観察し、学習の見通しをもって見つけたことを文章にして伝えようとしている。
かん字の はなし	6	◎第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)	【知・技】第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。((1)エ)	【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	【態】積極的に漢字の成り立ちに興味をもち、学習課題に沿って漢字を使った短い文を書こうとしている。

ことばを たのしもう	2	◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。(知・技(3)イ) ○音節と文字との関係に気づくとともに、発声や発音に注意して話すことができる。(知・技(1)イ) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク)	【知・技】 ・音節と文字との関係に気づくとともに、発声や発音に注意して話している。((1)イ) ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。((1)ク) ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。((3)イ)		【態】積極的に詩や早口言葉を楽しみ、これまでの学習や経験をいかして、発声や発音に気をつけながら声に出して読もうとしている。
じどう車くらべ	7	◎事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ○文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。(思・判・表C(1)ウ)	【知・技】事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア) ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ)	【態】進んで説明における順序を考えながら読み、自分が説明するときにかしたいことを見つけようとしている。
じどう車ずかんと つくろう	5	◎事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。(思・判・表B(1)イ) ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)	【知・技】事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)	【思・判・表】「書くこと」において、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B(1)イ)	【態】分かりやすい説明のしかたについて興味をもち、説明の順序に気をつけながら、見通しをもって自動車図鑑を作ろうとしている。
かたかなを かこう	2	◎片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ○語と語との続き方に注意しながら、書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)	【知・技】片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。((1)ウ)	【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	【態】片仮名の表記のしかたに気をつけながら、これまでの学習をいかして文の中で片仮名を使おうとしている。

どんな おはなしが できるかな	6	◎互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。(思・判・表A(1)オ) ◎文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)オ) ○句読点の打ち方、かぎ(「 」)の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ) ○話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。(思・判・表A(1)エ)	【知・技】 ・句読点の打ち方、かぎ(「 」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。((1)ウ) ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。((1)カ)	【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A(1)エ) ・「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。(A(1)オ) ・「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけている。(B(1)オ)	【態】物語を完成させるという見通しをもち、進んで友達に質問し、お話を書くとしている。
たぬきの 糸車	8	◎文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。(思・判・表C(1)オ) ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク) ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ)	【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。((1)カ) ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。((1)ク)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ) ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ)	【態】場面の様子に進んで着目し、これまでの学習をいかして、好きなところとそのわけを考えようとしている。
日づけと よう日	3	◎第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ○身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)	【知・技】 ・第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) ・身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。((1)オ)	【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	【態】積極的に日付や曜日を表す漢字に関心をもち、これまでの学習をいかして自分でも唱え歌を作ろうとしている。

てがみで しらせよう	6	◎丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れることができる。(知・技(1)キ) ◎文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる。(思・判・表B(1)エ) ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)	【知・技】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。((1)キ)	【思・判・表】 ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(B(1)ウ) ・「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。(B(1)エ)	【態】書いた文章を積極的に見直しながら、これまでの学習をいかして、身近な人に手紙を書こうとしている。
むかしばなしを よもう	8	◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。(知・技(3)エ) ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。(思・判・表C(1)カ)	【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。((3)エ)	【思・判・表】 ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ)	【態】積極的に世界の昔話を読み、これまでの学習をいかして感想をカードに書いて伝えようとしている。
なりきって よもう	2	◎場面の様子など、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク)	【知・技】語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。((1)ク)	【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ)	【態】進んで詩の内容を捉え、これまでの学習をいかして音読を楽しもうとしている。
くわしく きこう	2	◎身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ◎話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。(思・判・表A(1)エ) ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア)	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使い、語彙を豊かにしている。((1)オ)	【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A(1)エ)	【態】積極的に友達の話の話を聞き、学習の見直しをもって、質問や感想を述べようとしている。

ことばで あそぼう	2	◎身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。(知・技(3)イ)	【知・技】 ・身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。((1)オ) ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。((3)イ)		【態】積極的に身近なことを表す語句を使った言葉遊びを楽しみ、これまでの学習をいかして語彙を豊かにしようとしている。
どうぶつの 赤ちゃん	10	◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。(思・判・表C(1)オ) ◎文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。(思・判・表C(1)カ) ○読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。(知・技(3)エ)	【知・技】 ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) ・読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。((3)エ)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ) ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ)	【態】文章の内容を比べながら粘り強く読み、学習の見通しをもって、本から得たことを友達に知らせようとしている。
ものの 名まえ	6	◎言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づくことができる。(知・技(1)オ) ○互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。(思・判・表A(1)オ)	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。((1)ア) ・身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づいている。((1)オ)	【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。(A(1)オ)	【態】積極的に言葉の上位語と下位語に関心をもち、学習の見通しをもって、言葉を集めて「おみせやさんごっこ」をしようとしている。
わらしべちょうじゃ	1	◎昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる。(知・技(3)ア) ○文章を読んで感じたことを共有することができる。(思・判・表C(1)カ)	【知・技】昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。((3)ア)	【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことを共有している。(C(1)カ)	【態】積極的に昔話の読み聞かせを楽しみ、これまでの学習をいかして内容や感想を共有しようとしている。

かたかなの かたち	3	◎片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)	【知・技】片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。((1)ウ)	【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	【態】進んで形の似ている字を探し、これまでの学習をいかして片仮名の言葉を使った文を書こうとしている。
ことばあそびを つくろう	6	◎身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。(知・技(3)イ) ○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)	【知・技】 ・身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにしている。((1)オ) ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。((3)イ)	【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	【態】身近なことを表す語句に積極的に関心をもち、これまでの学習をいかして言葉遊びを楽しもうとしている。
これは、なんでしょう	4	◎互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。(思・判・表A(1)オ) ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア)	【知・技】事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)	【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。(A(1)オ)	【態】粘り強く二人で話し合い、学習課題に沿って協力してクイズを作ろうとしている。
ずうっと、ずっと、大すきだよ	8	◎文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。(思・判・表C(1)カ) ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。(思・判・表C(1)オ)	【知・技】事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ) ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ)	【態】友達の考えや感想を積極的に知ろうとし、学習の見通しをもって、読んで感じたことを伝え合おうとしている。

にて いる かん字	3	◎第1学年に担当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・語と語との続き方に注意しながら、文を書き表すことができる。(思・判・表B(1)ウ)	【知・技】第1学年に担当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。(知(1)エ)	【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、文を書き表している。(B(1)ウ)	【態】進んで漢字の形に注意し、これまでの学習をいかして楽しみながら文を書こうとしている。
いい こと いっぱい、一年生	10	◎自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。(思・判・表B(1)イ) ○敬体で書かれた文章に慣れることができる。(知・技(1)キ) ○経験したことから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)	【知・技】敬体で書かれた文章に慣れている。(知(1)キ)	【思・判・表】 ・「書くこと」において、経験したことから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ・「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B(1)イ)	【態】事柄の順序に沿って構成を粘り強く考えながら、これまでの学習や経験をいかして1年生の思い出を伝える文章を書こうとしている。

教科	国語	学年	第2学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
じゅんばんに ならぼう	1	○言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞くことができる。(思・判・表A(1)エ)	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。((1)ア)	【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞いている。(A(1)エ)	【態】自分が聞きたいことを粘り強く集中して聞き取り、学習課題に沿って声をかけ合い、正しい順番で並ぼうとしている。
絵を見て かこう つづけて みよう	1	○第1学年に配当されている漢字を文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ○想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ○文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)オ)	【知・技】第1学年に配当されている漢字を文章の中で使っている。((1)エ)	【思・判・表】 ・「書くこと」において、想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ・「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけている。(B(1)オ)	【態】絵の中から進んで書くことを見つけ、これまでの学習をいかして文章を書こうとしている。
ふきのとう	9	◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク)	【知・技】 ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。((1)オ) ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。((1)ク)	【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ)	【態】場面の様子を表す言葉を手がかりに粘り強く物語の内容を確かめ、これまでの学習をいかして音読を工夫し、感想を伝え合おうとしている。

図書館たんけん	1	◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。(知・技(3)エ)	【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。((3)エ)		【態】積極的に図書館の配架や本の並べ方を学び、学習課題に沿って自分の読みたい本を探そうとしている。
春が いっぱい	2	◎言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。((1)ア) ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。((1)オ)	【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	【態】積極的に、言葉には事物の内容を表す働きがあることに気づき、学習課題に沿って見つけたものをカードに書こうとしている。
日記を 書こう	4	◎経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ○言葉には、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)	【知・技】言葉には、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。((1)ア)	【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	【態】進んで経験したことなどから伝えたいことを明確にし、学習の見通しをもって日記を書こうとしている。

ともだちは どこかな	5	◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えることができる。(思・判・表A(1)エ) ○音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気づくとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。(知・技(1)イ) ○伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ)	【知・技】 ・音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気づくとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。((1)イ) ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)	【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(A(1)ウ) ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えている。(A(1)エ)	【態】自分にとって必要なことを集中して粘り強く聞き取り、これまでの学習をいかして簡潔にメモしようとしている。
たんぼぼの ちえ	10	◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎時間的な順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク) ○文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。(思・判・表C(1)ウ)	【知・技】 ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。((1)ク) ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、時間的な順序を考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア) ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ)	【態】粘り強く時間的な順序を考えて内容を捉え、学習の見通しをもって読んだ文章の感想を書こうとしている。
かんさつ名人に なろう	10	◎経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。((1)オ)	【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	【態】書くために必要な事柄を進んで集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にし、これまでの学習をいかして観察記録文を書こうとしている。

いなばの 白うさぎ	2	◎神話の読み聞かせを聞き、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる。(知・技(3)ア)	【知・技】神話の読み聞かせを聞き、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。((3)ア)		【態】進んで神話の読み聞かせを聞き、これまでの学習をいかして感想を伝え合おうとしている。
同じ ぶぶんを もつ かん字		◎第2学年までに配当されている漢字を読むことができるとともに、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)	【知・技】第2学年までに配当されている漢字を読み、文や文章の中で使っている。((1)エ)		【態】積極的に第2学年までに配当されている漢字の読み書きに取り組み、学習課題に沿って、同じ部分をもつ漢字を見つけようとしている。
スイミー	9	◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ) ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)イ)	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。((1)オ)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ)	【態】粘り強く場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って自分の好きな場面を伝え合おうとしている。
かん字の ひろば①	2	◎第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ○助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ・語と語との続き方に注意することができる。(思・判・表B(1)ウ)	【知・技】 ・助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使っている。((1)ウ) ・第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ)	【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。(B(1)ウ)	【態】進んで第1学年に配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして絵を説明する文を書こうとしている。

【じょうほう】メモをとるとき	3	◎経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ○言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。((1)ア)	【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	【態】積極的に必要な事柄を集め、これまでの学習をいかして知らせたいことをメモに取ろうとしている。
こんなもの、見つけたよ	10	◎句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ◎自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。(思・判・表B(1)イ)	【知・技】句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して、文や文章の中で使っている。((1)ウ)	【思・判・表】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B(1)イ)	【態】事柄の順序に沿った構成を粘り強く考え、学習の見通しをもって、読み手に分かりやすく伝える文章を書こうとしている。
あったらいいな、こんなもの	7	◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ◎話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。(思・判・表A(1)エ) ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア)	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。((1)オ)	【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A(1)エ)	【態】話し手が知らせたいことを落とさないように粘り強く聞き、学習課題に沿って質問をし合って考えをまとめようとしている。
夏がいっぱい	2	◎言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ◎経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。((1)ア) ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。((1)オ)	【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	【態】積極的に、言葉には事物の内容を表す働きがあることに気づき、学習課題に沿って見つけたものをカードに書こうとしている。

お気に入りの本をしょうかいしよう ミリーのすてきなぼうし	6	◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。(知・技(3)エ) ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。(思・判・表C(1)カ)	【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。((3)エ)	【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ)	【態】進んで読書に親しみ、学習課題に沿ってお気に入りの本を紹介しようとしている。
雨のうた	2	○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク) ○詩を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。(思・判・表C(1)カ)	【知・技】語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。((1)ク)	【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ)	【態】粘り強く語のまとまりや言葉の響きに気をつけて音読し、これまでの学習をいかして詩を楽しんで読もうとしている。
ことばでみちあんない	3	◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。(思・判・表A(1)イ) ○話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えることができる。(思・判・表A(1)エ)	【知・技】共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)	【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。(A(1)イ) ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えている。(A(1)エ)	【態】話す事柄の順序を粘り強く考え、学習課題に沿って相手を目的地に導く道案内をしようとしている。
みの回りのものを読もう	2	◎文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。(思・判・表C(1)ウ) ○言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。(思・判・表C(1)オ)	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。((1)ア)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ) ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ)	【態】積極的に身の回りのものから重要な情報を読み取り、学習課題に沿って、考えを交流しようとしている。

書いたら、見直そう	2	◎文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる。(思・判・表B(1)エ) ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ)	【知・技】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。((1)ウ)	【思・判・表】「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。(B(1)エ)	【態】進んで文章を読み返し、学習課題に沿って間違いなどを正そうとしている。
かん字のひろば②	2	◎第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・語と語との続き方に注意することができる。(思・判・表B(1)ウ)	【知・技】第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ)	【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。(B(1)ウ)	【態】進んで第1学年に配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして日記を書こうとしている。
どうぶつ園のじゅうい	10	◎文の中における主語と述語の関係に気づくことができる。(知・技(1)カ) ◎文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。(思・判・表C(1)オ) ○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ○時間的な順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)ア)	【知・技】 ・文の中における主語と述語の関係に気づいている。((1)カ) ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、時間的な順序を考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア) ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ)	【態】進んで文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち、これまでの学習をいかして、文章を読んで考えたことを友達と話そうとしている。
かたかなのひろば	2	◎片仮名を読み、書くとともに片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)	【知・技】片仮名を読み、書くとともに片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。((1)ウ)	【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	【態】進んで片仮名を使って書く語を見つけ、学習課題に沿って文を書こうとしている。

ことばあそびをしよう	2	◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。(知・技(3)イ)	【知・技】長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。((3)イ)		【態】進んで、言葉の豊かさに気づき、これまでの学習をいかして言葉遊びを楽しもうとしている。
なかまのことばとかん字	2	◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○第2学年までに配当されている漢字を読み、漸次書くことができる。(知・技(1)エ)	【知・技】 ・第2学年までに配当されている漢字を読み、漸次書いている。((1)エ) ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。((1)オ)		【態】進んで、言葉には意味によるまとまりがあることに気づき、学習課題に沿って仲間の言葉を集めようとしている。
かん字のひろば③	2	◎第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ○助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ・語と語との続き方に注意することができる。(思・判・表B(1)ウ)	【知・技】 ・助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使っている。((1)ウ) ・第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ)	【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。(B(1)ウ)	【態】進んで第1学年に配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして絵を説明する文章を書こうとしている。
お手紙	12	◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ◎文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。(思・判・表C(1)オ) ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ) ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ)	【知・技】 ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。((1)オ) ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。((1)カ)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ) ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ)	【態】進んで文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち、学習課題に沿って、登場人物に手紙を書こうとしている。

主語と述語に 気をつけよう	2	◎文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)力)	【知・技】文の中における主語と述語との関係に気づいている。((1)力)		【態】積極的に、主語と述語の関係に気づき、学習課題に沿って文中から主語と述語を捉えようとしている。
かん字の読み方	2	◎第2学年までに配当されている漢字を読むことができるとともに、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)	【知・技】第2学年までに配当されている漢字を読んでいるとともに、文や文章の中で使っている。((1)エ)		【態】進んで第2学年までに配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、漢字の異なる読み方に気をつけて読もうとしている。
秋がいっぱい	2	◎言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。((1)ア) ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。((1)オ)	【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	【態】積極的に、言葉には事物の内容を表す働きがあることに気づき、学習課題に沿って見つけたものをカードに書こうとしている。
そうだんにのってください	8	◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。(思・判・表A(1)オ) ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア)	【知・技】共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)	【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。(A(1)オ)	【態】積極的に相手の発言を受けて話をつなぎ、学習の見通しをもって話し合おうとしている。

紙コップ花火の作り方 おもちゃの作り方をせつめいしよう	14	◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。(思・判・表C(1)ウ) ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○時間的な順序や事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)ア)	【知・技】 ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。((1)オ) ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)	【思・判・表】 ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ・「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア) ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ)	【態】進んで文章の中の語や文を選び出したり、事柄の順序に沿って分かりやすく伝える書き表し方を工夫したりして、学習の見通しをもっておもちゃの作り方を説明する文章を書こうとしている。
にたいみのことば、はんたいのいみのことば	2	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。((1)オ)		【態】進んで言葉には意味によるまとまりがあることに気づき、学習課題に沿って、似た意味の言葉や反対の意味の言葉の組を作ろうとしている。	
せかいーの話	1	◎昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる。(知・技(3)ア) ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。(思・判・表C(1)オ)	【知・技】昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。((3)ア)	【思・判・表】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ)	【態】進んで昔話の読み聞かせを聞いて伝統的な言語文化に親しみ、これまでの学習をいかして、おもしろいと思うことを共有しようとしている。

かん字のひろば④	2	◎第1学年に担当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・語と語との続き方に注意することができる。(思・判・表B(1)ウ)	【知・技】第1学年に担当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ)	【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。(B(1)ウ)	【態】進んで第1学年に担当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして文章を書こうとしている。
みきのたからもの	10	◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ) ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ) ○読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。(知・技(3)エ) ○場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)イ)	【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。((1)カ) ・読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。((3)エ)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ)	【態】登場人物の様子を具体的に想像することに積極的に取り組み、学習の見通しをもってお話を紹介する文章を書こうとしている。
お話のさくしゃになろう	10	◎文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ) ◎自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。(思・判・表B(1)イ)	【知・技】文の中における主語と述語との関係に気づいている。((1)カ)	【思・判・表】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B(1)イ)	【態】事柄の順序に沿って粘り強く構成を考え、学習課題に沿って物語を書こうとしている。
冬がいっぱい	2	◎言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。((1)ア) ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。((1)オ)	【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	【態】積極的に、言葉には事物の内容を表す働きがあることに気づき、学習課題に沿って見つけたものをカードに書こうとしている。

ねこのこ おのはなびら はんたいことば	2	◎詩を読んで、感じたことや分かったことを共有することができる。(思・判・表C(1)カ) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク)	【知・技】語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。((1)ク)	【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで、感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ)	【態】詩を読んで感じたことを進んで共有し、学習課題に沿って詩を紹介しようとしている。
かたかなで書くことば	2	◎片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ・語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)	【知・技】片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文の中で使っている。((1)ウ)	【思・判・表】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	【態】積極的に、片仮名で書く語の種類を知り、これまでの学習をいかして、片仮名を使って文を書こうとしている。
ことばを楽しもう	1	◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。(知・技(3)イ)	【知・技】長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。((3)イ)		【態】積極的に、言葉の豊かさに気づき、学習課題に沿って言葉遊びを楽しもうとしている。

ロボット	12	◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。(知・技(3)エ) ◎文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。(思・判・表C(1)カ) ○文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。(思・判・表C(1)ウ)	【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。((3)エ)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ) ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ)	【態】文章を読んで、感じたことや分かったことを進んで共有し、学習の見通しをもって、本を読んで分かったことを説明しようとしている。
ようすをあらわすことば	4	◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。((1)ア) ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。((1)オ)	【思・判・表】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	【態】進んで身近なことを表す語句の量を増やして語彙を豊かにし、学習課題に沿って、様子を表す言葉を使って文を書こうとしている。
見たこと、かんじたこと	6	◎詩に対する感想を伝え合い、自分の詩の内容や表現のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)オ) ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。((1)オ)	【思・判・表】「書くこと」において、詩に対する感想を伝え合い、自分の詩の内容や表現のよいところを見つけている。(B(1)オ)	【態】進んで感想を伝え合い、これまでの学習をいかして詩を書き、読み合おうとしている。
カンジーはかせの大はつめい	2	【知・技】第2学年までに配当されている漢字を読み、漸次書いている。((1)エ)			【態】積極的に第2学年までに配当されている漢字を読んだり書いたりし、これまでの学習をいかして漢字クイズに取り組もうとしている。

すてきなところをつたえよう	10	◎丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れることができる。(知・技(1)キ) ◎語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)	【知・技】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。((1)キ)	【思・判・表】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	【態】積極的に語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫し、これまでの学習をいかして手紙を書こうとしている。
スーホの白い馬	14	◎文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。(思・判・表C(1)カ) ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ)	【知・技】 ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。((1)オ) ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ) ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ)	【態】文章を読んで感じたことや分かったことを進んで共有し、学習課題に沿って、最も心を動かされたことを伝え合おうとしている。
かん字の広場⑤	2	◎第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ◎文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ) ・語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)	【知・技】 ・第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。((1)カ)	【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	【態】進んで第1学年に配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして絵を説明する文を書こうとしている。
楽しかったよ、二年生	8	◎姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。(知・技(1)イ) ◎相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。(思・判・表A(1)イ) ◎丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うことができる。(知・技(1)キ) ◎伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ)	【知・技】 ・姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。((1)イ) ・丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使っている。((1)キ)	【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。(A(1)イ) ・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(A(1)ウ)	【態】行動したことや経験したことに基づいて話す事柄の順序を粘り強く考え、これまでの学習をいかして発表しようとしている。

二年生をふりかえって	1	○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。((1)ア)	【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	【態】進んで、経験したことなどから書くために必要な事柄を集めたり確かめたりし、これまでの学習をいかして、1年間の振り返りを書こうとしている。
------------	---	--	--	---	---

教科	国語	学年	第3学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
よく聞いて、じこしょうかい	1	○相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話することができる。(知・技(1)イ) ○話し手が伝えたいことの中心を捉えることができる。(思・判・表A(1)エ)	【知・技】相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。((1)イ)	【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話し手が伝えたいことの中心を捉えている。(A(1)エ)	【態】積極的に相手を見て話したり聞いたりし、学習課題に沿って自己紹介をしようとしている。
どきん	1	◎文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。(知・技(1)ク) ○文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。(思・判・表C(1)力)	【知・技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。((1)ク)	【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(1)力)	【態】積極的に文章全体の構成や内容の大体を意識し、学習課題に沿って楽しんで詩を音読しようとしている。
わたしのさいこうの一日 つづけてみよう	1	○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使うことができる。(知・技(1)オ)	【知・技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使っている。((1)オ)	【思・判・表】 ・「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ・「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	【態】経験したことや想像したことなどから書くことを進んで選び、学習課題に沿って日記を書こうとしている。

春風をたどって	8	◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ◎登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。(知・技(1)ク)	【知・技】 ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。((1)オ) ・文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。((1)ク)	【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(C(1)イ)	【態】進んで、登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉え、学習課題に沿って想像したことを伝え合おうとしている。
図書館たんていだん	1	◎読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ)	【知・技】読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。((3)オ)		【態】読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことを積極的に知り、学習課題に沿って学校図書館の工夫について調べようとしている。
国語辞典を使おう	2	◎辞書の使い方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ)	【知・技】辞書の使い方を理解し使っている。((2)イ)		【態】進んで辞書の使い方を理解し、学習課題に沿って国語辞典を使おうとしている。
漢字の広場①	2	◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)	【知・技】第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ)	【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ)	【態】積極的に第2学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして漢字を適切に使った文を作ろうとしている。

春のくらし	2	◎語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。 (知・技(1)オ) ○経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)	【知・技】語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。((1)オ)	【思・判・表】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	【態】積極的に語句の量を増し、話や文章の中で使い、学習課題に沿ってその季節らしさを表現した文章を書こうとしている。
もっと知りたい、友だちのこと 【コラム】きちんとつたえるために	6	◎相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。(知・技(1)イ) ◎必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことができる。(思・判・表A(1)エ) ○目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア)	【知・技】相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。((1)イ)	【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。(A(1)エ)	【態】粘り強く話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、学習の見通しをもって話したり、質問したりしようとしている。
漢字の音と訓	2	◎第3学年までに配当されている漢字を読むことができる。(知・技(1)エ)	【知・技】第3学年までに配当されている漢字を読んでいる。((1)エ)		【態】進んで第3学年までに配当されている漢字を読み、学習課題に沿ってよりよく漢字を学ぼうとしている。
漢字の広場②	2	◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ○接続する語句の役割について理解することができる。(知・技(1)カ) ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)	【知・技】 ・第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) ・接続する語句の役割について理解している。((1)カ)	【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ)	【態】積極的に第2学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして漢字を適切に使った文を作ろうとしている。

文様 こまを楽しむ	8	◎全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎段落相互の關係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との關係などについて、叙述を基に捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ○段落の役割について理解することができる。(知・技(1)カ) ○目的を意識して、中心となる語や文を見つけることができる。(思・判・表C(1)ウ)	【知・技】 ・段落の役割について理解している。((1)カ) ・全体と中心など情報と情報との關係について理解している。((2)ア)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、段落相互の關係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との關係などについて、叙述を基に捉えている。(C(1)ア) ・「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけている。(C(1)ウ)	【態】進んで段落相互の關係に着目しながら内容を捉え、学習課題に沿って説明する文章を読んだ感想を伝え合おうとしている。
気持ちをこめて、「来てください」	4	◎丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くことができる。(知・技(1)キ) ◎間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ) ○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)	【知・技】 ・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。((1)ア) ・丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。((1)キ)	【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。(B(1)エ)	【態】粘り強く、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整え、学習の見通しをもって行事を案内する手紙を書こうとしている。
漢字の広場③	2	◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)	【知・技】第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ)	【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。(B(1)エ)	【態】積極的に第2学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、漢字を適切に使った文を作ろうとしている。
まいごのかぎ	6	◎登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ) ○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)	【知・技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。((1)オ)	【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ)	【態】登場人物の気持ちの変化について、進んで場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習課題に沿って物語の好きな場面について話し合おうとしている。

俳句を楽しもう	1	◎易しい文語調の俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親むことができる。(知・技(3)ア)	【知・技】易しい文語調の俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。((3)ア)		【態】進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って俳句を音読しようとしている。
こそあど言葉を使いこなそう	2	◎指示する語句の役割について理解することができる。(知・技(1)カ)	【知・技】指示する語句の役割について理解している。((1)カ)		【態】積極的に指示する語句の役割について理解し、学習課題に沿って使おうとしている。
【じょうほう】引用するとき	3	◎引用のしかたや出典の示し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)	【知・技】引用のしかたや出典の示し方を理解し使っている。((2)イ)	【思・判・表】書くことにおいて、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	【態】積極的に引用のしかたや出典の示し方を理解し使い、学習課題に沿って本などから調べたことを引用して文章を書こうとしている。
仕事のくふう、見つけたよ	10	◎相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ○改行のしかたを理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つことができる。(知・技(1)ウ) ○段落の役割について理解することができる。(知・技(1)カ) ○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)	【知・技】 ・改行のしかたを理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。((1)ウ) ・段落の役割について理解している。((1)カ)	【思・判・表】 ・「書くこと」において、相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ・「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	【態】進んで相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にし、学習の見通しをもって調べたことを報告する文章を書こうとしている。

夏のくらし	2	◎語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)	【知・技】語句の量を増し、文章の中で使うとともに、語彙を豊かにしている。((1)オ)	【思・判・表】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	【態】積極的に語句の量を増し、話や文章の中で使い、学習課題に沿ってその季節らしさを表現した文章を書こうとしている。
本で知ったことをクイズにしよう 鳥になったきょうりゅうの話	5	◎幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ) ○文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。(思・判・表C(1)カ)	【知・技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。((3)オ)	【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(1)カ)	【態】進んで幅広く読書に親しみ、学習課題に沿って本で知ったことをクイズにしようとしている。
わたしと小鳥とすずと 夕日がせなかをおしてくる	2	○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。(知・技(1)ク) ○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ)	【知・技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。((1)ク)	【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ)	【態】進んで文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読し、学習課題に沿って詩を読んで思ったことや感じたことを話し合おうとしている。
こんな係がクラスにほしい	3	◎考えとそれを支える理由や事例について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎目的や進め方を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)オ) ○目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりすることができる。(思・判・表A(1)ア)	【知・技】考えとそれを支える理由や事例について理解している。((2)ア)	【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりしている。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。(A(1)オ)	【態】進んで互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめ、学習の見通しをもってグループで話し合い、考えを整理してまとめようとしている。

ポスターを読もう	2	◎文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。(思・判・表C(1)オ) ○比較や分類のしかたを理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ○目的を意識して、中心となる語や文を見つけることができる。(思・判・表C(1)ウ)	【知・技】比較や分類のしかたを理解し使っている。((2)イ)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけている。(C(1)ウ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ)	【態】文章を読んで理解したことに基づいて、進んで感想や考えをもち、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
書くことを考えるときは	2	◎比較や分類のしかたを理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)	【知・技】比較や分類のしかたを理解し使っている。((2)イ)	【思・判・表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	【態】粘り強く集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にし、学習課題に沿って夏休みの思い出を書こうとしている。
漢字の組み立て	3	◎漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解することができる。(知・技(3)ウ)	【知・技】漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。((3)ウ)		【態】漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて粘り強く理解し、学習課題に沿って漢字の構成を捉えようとしている。
ローマ字	4	◎日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くことができる。(知・技(1)ウ)	【知・技】日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。((1)ウ)		【態】進んでローマ字で表記されたものを読み、学習課題に沿ってローマ字で書いたり入力したりしようとしている。

ちいちゃんのかげおくり	10	◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ◎文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。(思・判・表C(1)オ) ○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ)	【知・技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。((1)オ)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ)	【態】文章を読んで理解したことに基づいて、進んで感想や考えをもち、学習課題に沿って物語を読んだ感想をまとめようとしている。
修飾語を使って書こう	2	◎主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係について理解することができる。(知・技(1)力) ○言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解することができる。(知・技(1)オ)	【知・技】 ・言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解している。((1)オ) ・主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係について理解している。((1)力)		【態】粘り強く修飾と被修飾との関係について理解し、学習課題に沿って修飾語を使って文を書こうとしている。
秋のくらし	2	◎語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)	【知・技】語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。((1)オ)	【思・判・表】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	【態】積極的に語句の量を増し、話や文章の中で使い、学習課題に沿ってその季節らしさを表現した文章を書こうとしている。
おすすめの一さつを決めよう	8	◎比較や分類のしかたを理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)オ) ○目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア)	【知・技】比較や分類のしかたを理解し使っている。((2)イ)	【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。(A(1)オ)	【態】粘り強く司会などの役割を果たしながら話し合い、学習の見通しをもって考えをまとめようとしている。

すがたをかえる大豆	12	◎比較や分類のしかた、辞書の使い方 方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎書く内容の中心を明確にし、内容の まとまりで段落をついたり、段落相互 の関係に注意したりして、文章の構成 を考えることができる。(思・判・表B(1) イ) ◎目的を意識して、中心となる語や文 を見つけることができる。(思・判・表 C(1)ウ) ○幅広く読書に親しみ、読書が、必要 な知識や情報を得ることに役立つこと に気づくことができる。(知・技(3)オ)	【知・技】 ・比較や分類のしかた、辞書の使い方 方を理解し使っている。((2)イ) ・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な 知識や情報を得ることに役立つことに 気づいている。((3)オ)	【思・判・表】 ・「書くこと」において、書く内容の中心 を明確にし、内容のまとまりで段落を ついたり、段落相互の関係に注意し たりして、文章の構成を考えている。 (B(1)イ) ・「読むこと」において、目的を意識し て、中心となる語や文を見つけてい る。(C(1)ウ)	【態】目的を意識して、粘り強く中心とな る語や文を見つけたり、それらを明確 にして文章の構成を考えたりし、学習 の見通しをもって筆者の説明の工夫を いかした文章を書こうとしている。
ことわざ・故事成語	4	◎長い間使われてきたことわざや慣用 句、故事成語などの意味を知り、使う ことができる。(知・技(3)イ) ○目的を意識して、伝えたいことを明 確にすることができる。(思・判・表B(1) ア)	【知・技】長い間使われてきたことわざ や慣用句、故事成語などの意味を知 り、使っている。((3)イ)	【思・判・表】「書くこと」において、目的 を意識して、伝えたいことを明確にして いる。(B(1)ア)	【態】積極的にことわざや慣用句、故事 成語などの意味を知り、使い、学習課 題に沿ってことわざ辞典を作ろうとし ている。
漢字の意味	2	◎漢字と仮名を用いた表記を理解して 文や文章の中で使うことができる。 (知・技(1)ウ)	【知・技】漢字と仮名を用いた表記を理 解して文や文章の中で使っている。 ((1)ウ)		【態】積極的に漢字と仮名を用いた表 記を理解し、これまでの学習をいかし て文や文章の中で使おうとしている。
短歌を楽しもう	1	◎易しい文語調の短歌を音読したり暗 唱したりするなどして、言葉の響きやリ ズムに親しむことができる。(知・技(3) ア)	【知・技】易しい文語調の短歌を音読し たり暗唱したりするなどして、言葉の響 きやリズムに親しんでいる。((3)ア)		【態】進んで言葉の響きやリズムに親し み、学習課題に沿って短歌を音読した り暗唱したりしようとしている。

漢字の広場④	2	◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)	【知・技】第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ)	【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ)	【態】積極的に第2学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、漢字を適切に使った文を作ろうとしている。
三年とうげ	6	◎登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ○引用のしかたを理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ) ○文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。(思・判・表C(1)オ)	【知・技】 ・引用のしかたを理解し使っている。((2)イ) ・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。((3)オ)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(C(1)イ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ)	【態】登場人物の行動や気持ちなどについて、積極的に叙述を基に捉え、学習課題に沿って民話や昔話を紹介しようとしている。
わたしの町のよいところ	10	◎書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)オ) ○考えとそれを支える理由について理解することができる。(知・技(2)ア)	【知・技】考えとそれを支える理由について理解している。((2)ア)	【思・判・表】「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)オ)	【態】積極的に文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけ、学習課題に沿って町のよさを紹介する文章を書こうとしている。
冬のくらし	2	◎語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)	【知・技】語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにしている。((1)オ)	【思・判・表】経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	【態】積極的に語句の量を増し、話や文章の中で使い、学習課題に沿ってその季節らしさを表現した文章を書こうとしている。

詩のくふうを楽しもう	4	○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。(知・技(1)ク) ○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)オ) ○文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。(思・判・表C(1)オ)	【知・技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。((1)ク)	【思・判・表】 ・「書くこと」において、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)オ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ)	【態】進んで文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読し、学習課題に沿って詩を創作しようとしている。
四まいの絵を使って	2	◎書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。(思・判・表B(1)イ) ○段落の役割について理解することができる。(知・技(1)カ)	【知・技】段落の役割について理解している。((1)カ)	【思・判・表】「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(B(1)イ)	【態】書く内容の中心を明確にし、文章の構成を考えることに粘り強く取り組み、学習課題に沿って物語の流れを書こうとしている。
カンジーはかせの音訓かるた	2	◎第3学年までに配当されている漢字を読むことができる。また、第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第3学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)	【知・技】第3学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第3学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。((1)エ)		【態】進んで第3学年までに配当されている漢字を読み、学習課題に沿って漢字の音訓を使った文を書こうとしている。
漢字の広場⑤	2	◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)	【知・技】第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ)	【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ)	【態】積極的に第2学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、漢字を適切に使った文を作ろうとしている。

ありの行列	7	◎指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。(知・技(1)力) ◎文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。(思・判・表C(1)才) ◎文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。(思・判・表C(1)力) ○言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解することができる。(知・技(1)才)】	【知・技】 ・言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解している。((1)才) ・指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。((1)力)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)才) ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(1)力)	【態】進んで文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習課題に沿って、考えたことを伝え合おうとしている。
つたわる言葉で表そう	5	◎言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)才) ○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)	【知・技】 ・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。((1)ア) ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにしている。((1)才)	【思・判・表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	【態】言葉には考えたことや思ったことを表す働きがあることに積極的に気づき、学習の見通しをもって相手に伝える文章を書こうとしている。
たから島のぼうけん	8	◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)才) ◎書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)	【知・技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。((1)才)	【思・判・表】「書くこと」において、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	【態】進んで様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにし、学習の見通しをもって物語を創作しようとしている。

お気に入りの場所、教えます	8	◎相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話することができる。(知・技(1)イ) ◎相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように話の構成を考えることができる。(思・判・表A(1)イ) ○考えとそれを支える理由や事例、全体と中心などの情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ○話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ)	【知・技】 ・相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。((1)イ) ・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心などの情報と情報との関係について理解している。((2)ア)	【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように話の構成を考えている。(A(1)イ) ・「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。(A(1)ウ)	【態】進んで話の中心が明確になるように話の構成を考え、学習課題に沿ってお気に入りの場所を発表しようとしている。
モチモチの木	12	◎文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。(思・判・表C(1)カ) ○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ)	【知・技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。((1)オ)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(1)カ)	【態】登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に粘り強く想像し、学習課題に沿って考えたことをまとめ、伝え合おうとしている。
漢字の広場⑥	2	◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ○修飾と被修飾との関係について理解することができる。(知・技(1)カ) ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)	【知・技】 ・第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) ・修飾と被修飾との関係について理解している。((1)カ)	【思・判・表】間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ)	【態】積極的に第2学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、漢字を適切に使った文を作ろうとしている。

三年生をふり返って	1	○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)	【知・技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。((1)ア)	【思・判・表】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	【態】進んで経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にし、学習課題に沿って1年間の振り返りを書こうとしている。

教科	国語	学年	第4学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
力を合わせてばらばらに	1	○様子や行動、気持ちを表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○必要なことを記録しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことができる。(思・判・表A(1)エ)	【知・技】様子や行動、気持ちを表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。((1)オ)	【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。(A(1)エ)	【態】積極的に、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、学習の見通しをもって、情報を集める話し合いをしようとしている。
春のうた	1	◎詩全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。(知・技(1)ク) ○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ)	【知・技】詩全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。((1)ク)	【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ)	【態】積極的に情景などを具体的に想像して読み、学習課題に沿って、想像しながら詩を音読しようとしている。
なりきって書こう つづけてみよう	1	○修飾と被修飾との関係について理解することができる。(知・技(1)カ) ○書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)オ)	【知・技】修飾と被修飾との関係について理解している。((1)カ)	【思・判・表】「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)オ)	【態】進んで感想や意見を伝え合い、学習の見通しをもって、なりきって想像したことを書こうとしている。

白いぼうし	7	◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ◎登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。(知・技(1)ク)	【知・技】 ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。((1)オ) ・文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。((1)ク)	【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(C(1)イ)	【態】進んで登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉え、学習課題に沿って、不思議なところについて考えたことを伝え合おうとしている。
図書館の達人になろう	1	◎幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ)	【知・技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。((3)オ)		【態】進んで読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づき、これまでの学習をいかして、本の探し方を考えながら学校図書館で本を探そうとしている。
漢字辞典を使おう	2	◎漢字辞典の使い方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ)	【知・技】漢字辞典の使い方を理解し使っている。((2)イ)		【態】進んで漢字辞典の使い方を理解し、学習課題に沿って、漢字辞典を使って調べようとしている。
春の楽しみ	2	◎様子や行動を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)	【知・技】様子や行動を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにしている。((1)オ)	【思・判・表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	【態】積極的に春の行事やその様子などを表す語句の量を増し、学習の見通しをもって、春の行事の様子を伝える手紙を書こうとしている。

聞き取りメモのくふう	6	◎必要な語句などの書き留め方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことができる。(思・判・表A(1)エ) ○相手を見て話したり聞いたりすることができる。(知・技(1)イ)	【知・技】 ・相手を見て話したり聞いたりしている。((1)イ) ・必要な語句などの書き留め方を理解し使っている。((2)イ)	【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。(A(1)エ)	【態】粘り強く必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話の中心を捉え、学習の見通しをもって、聞いたことを伝えるためにメモを取ろうとしている。
カンジーはかせの都道府県の旅1	2	◎第4学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)	【知・技】第4学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。((1)エ)		【態】進んで第4学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、学習課題に沿って、都道府県名を使った文を作ろうとしている。
漢字の広場①	2	◎第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)	【知・技】第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ)	【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。(B(1)エ)	【態】進んで第3学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、文を書こうとしている。
思いやりのデザイン アップとルーズで伝える 【じょうほう】考えと例	8	◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ○接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。(知・技(1)カ) ○文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。(思・判・表C(1)オ)	【知・技】 ・接続する語句の役割、段落の役割について理解している。((1)カ) ・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。(C(1)ア) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ)	【態】粘り強く、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉え、学習の見通しをもって、自分の考えを伝え合おうとしている。

お礼の気持ちを伝えよう	4	◎相手や目的を意識して、経験したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くことができる。(知・技(1)キ)	【知・技】 ・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。((1)ア) ・丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。((1)キ)	【思・判・表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	【態】進んで相手や目的を意識して伝えたいことを明確にし、学習の見通しをもって、お礼の手紙を書こうとしている。
漢字の広場②		◎第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)	【知・技】第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ)	【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ)	【態】進んで第3学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、文を書こうとしている。
一つの花	7	◎登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ) ○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)	【知・技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。((1)オ)	【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ)	【態】粘り強く、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって、心に残ったところを伝え合おうとしている。
つなぎ言葉のはたらきを知ろう	2	◎接続する語句の役割について理解することができる。(知・技(1)カ)	【知・技】接続する語句の役割について理解している。((1)カ)		【態】積極的に接続する語句の役割を理解し、これまでの学習をいかして、つなぎ言葉を使って文を書こうとしている。

短歌・俳句に親しもう(一)	1	◎易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア)	【知・技】易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。((3)ア)		【態】進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って、短歌や俳句を音読したり暗唱したりしようとしている。
【じょうほう】要約するとき	2	◎目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。(思・判・表C(1)ウ) ○考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)	【知・技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)	【思・判・表】「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。(C(1)ウ)	【態】粘り強く目的を意識して中心となる語や文を見つけ、学習課題に沿って、文章を要約しようとしている。

新聞を作ろう	10	◎書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。(思・判・表B(1)イ) ○比較や分類のしかた、必要な語句などの書き留め方、引用のしかたや出典の示し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)	【知・技】比較や分類のしかた、必要な語句などの書き留め方、引用のしかたや出典の示し方を理解し使っている。((2)イ)	【思・判・表】 ・「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ・「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(B(1)イ)	【態】進んで書く内容の中心を明確にして構成を考え、学習の見通しをもって、新聞を作ろうとしている。
カンジーはかせの都道府県の旅2	2	◎第4学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)	【知・技】第4学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。((1)エ)		【態】進んで第4学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、学習課題に沿って、都道府県名を使った文を作ろうとしている。
夏の楽しみ	2	◎様子や行動を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)	【知・技】様子や行動を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにしている。((1)オ)	【思・判・表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	【態】積極的に夏の行事やその様子などを表す語句の量を増し、学習の見通しをもって、夏の行事の様子を俳句で表現しようとしている。
本のポップや帯を作ろう 神様の階段	5	◎幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ) ○文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。(思・判・表C(1)カ)	【知・技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。((3)オ)	【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(1)カ)	【態】積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって、本をポップや帯で紹介しようとしている。

忘れもの ぼくは川	2	○詩全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。(知・技(1)ク) ○詩を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。(思・判・表C(1)オ)	【知・技】詩全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。((1)ク)	【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ)	【態】進んで二つの詩を読んで理解したことに基づいて感想をもち、学習課題に沿って、詩から受けた印象を伝え合おうとしている。
あなたなら、どう言う	3	◎考えとそれを支える理由との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎目的を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)オ) ○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)	【知・技】 ・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。((1)ア) ・考えとそれを支える理由との関係について理解している。((2)ア)	【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、目的を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。(A(1)オ)	【態】積極的に、互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめ、学習課題に沿って、異なる立場に立って話し合いをしようとしている。
パンフレットを読もう	2	◎目的を意識して、中心となる語や文を見つけることができる。(思・判・表C(1)ウ) ○読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ) ○文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。(思・判・表C(1)オ)	【知・技】読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。((3)オ)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけている。(C(1)ウ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ)	【態】積極的に目的を意識して中心となる語や文を見つけ、学習課題に沿って、パンフレットの工夫について話し合おうとしている。
どう直したらいいかな	2	◎間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ) ○主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。(知・技(1)カ) ○丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くことができる。(知・技(1)キ)	【知・技】 ・主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。((1)カ) ・丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。((1)キ)	【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ)	【態】進んで文章の間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、学習の見通しをもって、文章を推敲しようとしている。

いろいろな意味をもつ言葉	2	◎様子や行動を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○国語辞典の使い方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ)	【知・技】 ・様子や行動を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。((1)オ) ・国語辞典の使い方を理解し使っている。((2)イ)		【態】進んで様子や行動を表す語句の量を増し、学習の見通しをもって、言葉遊びの詩を作ろうとしている。
ローマ字を使いこなそう	2	◎日常使われている簡単な単語について、ローマ字で書くことができる。(知・技(1)ウ)	【知・技】日常使われている簡単な単語について、ローマ字で書いている。((1)ウ)		【態】積極的にローマ字の表記を考え、これまでの学習をいかして、ローマ字を書こうとしている。
漢字の広場③	2	◎第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ○接続する語句の役割について理解することができる。(知・技(1)カ) ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)	【知・技】 ・第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) ・接続する語句の役割について理解している。((1)カ)	【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ)	【態】進んで第3学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、文を書こうとしている。
ごんぎつね	12	◎言葉には性質による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ◎文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。(思・判・表C(1)オ) ○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ)	【知・技】言葉には性質による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。((1)オ)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ)	【態】進んで文章を読んで理解したことに基づいて感想をもち、学習の見通しをもって、物語の結末についての感想を書こうとしている。

漢字を正しく使おう	2	◎漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方を理解して文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ○第4学年までに配当されている漢字を読み、第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第4学年に配当されている漢字を漸次書くことができる。(知・技(1)エ)	【知・技】 ・漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方を理解して文や文章の中で使っている。((1)ウ) ・第4学年までに配当されている漢字を読み、第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第4学年に配当されている漢字を漸次書いている。((1)エ)		【態】進んで同音異義語や送り仮名の付け方などについて理解し、学習課題に沿って、漢字を文や文章の中で使おうとしている。
秋の楽しみ	2	◎様子や行動を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)	【知・技】様子や行動を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにしている。((1)オ)	【思・判・表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	【態】積極的に秋の行事やその様子などを表す語句の量を増し、学習の見通しをもって、秋の行事の様子を伝える手紙を書こうとしている。
クラスみんなで決めるには	8	◎比較や分類のしかた、必要な語句などの書き留め方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)オ) ○目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア)	【知・技】比較や分類のしかた、必要な語句などの書き留め方を理解し使っている。((2)イ)	【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。(A(1)オ)	【態】積極的に役割を果たしながら話し合い、学習課題に沿って、考えをまとめようとしている。
未来につなぐ工芸品 工芸品のみりよくを伝えよう	12	◎事典の使い方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。(思・判・表C(1)ウ) ○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ)	【知・技】 ・事典の使い方を理解し使っている。((2)イ) ・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。((3)オ)	【思・判・表】 ・「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ・「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。(C(1)ウ)	【態】積極的に、中心となる語や文を見つけて要約したり、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫したりして、学習の見通しをもって、調べて分かったことをまとめて書こうとしている。

慣用句	2	◎長い間使われてきた慣用句の意味を知り、使うことができる。(知・技(3)イ) ・相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)	【知・技】長い間使われてきた慣用句の意味を知り、使っている。((3)イ)	【思・判・表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	【態】進んで慣用句の意味を知り、学習の見通しをもって、慣用句を使った文を書こうとしている。
短歌・俳句に親しもう(二)	1	◎易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア)	【知・技】易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。((3)ア)		【態】進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って、短歌や俳句を音読したり暗唱したりしようとしている。
漢字の広場④	2	◎第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)	【知・技】第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ)	【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。(B(1)エ)	【態】進んで第3学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、文を書こうとしている。
友情のかべ新聞	8	◎登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ) ○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ)	【知・技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。((3)オ)	【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ)	【態】積極的に登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わりと結び付けながら想像して読み、学習の見通しをもって、おもしろいと思ったところを伝え合おうとしている。

もしものときにそなえよう	10	◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)	【知・技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)	【思・判・表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	【態】積極的に自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にし、学習の見通しをもって、調べて考えたことを文章に書こうとしている。
冬の楽しみ	2	◎様子や行動を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)	【知・技】様子や行動を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにしている。((1)オ)	【思・判・表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	【態】積極的に冬の行事やその様子などを表す語句の量を増し、学習の見通しをもって、冬の行事の楽しさを知らせるかるたを作ろうとしている。
自分だけの詩集を作ろう	4	○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ) ○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ○詩を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。(思・判・表C(1)カ)	【知・技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。((3)オ)	【思・判・表】 ・「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ・「読むこと」において、詩を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(1)カ)	【態】進んで目的を意識して詩を選び、学習の見通しをもって、自分だけの詩集を作ろうとしている。
言葉から連想を広げて	2	◎自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ○必要な語句などの書き留め方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ)	【知・技】必要な語句などの書き留め方を理解し使っている。((2)イ)	【思・判・表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	【態】進んで連想を広げ、書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって、ひと言で詩を書こうとしている。

熟語の意味	2	◎第4学年までに配当されている漢字を読むことができる。(知・技(1)エ)	【知・技】第4学年までに配当されている漢字を読んでいる。((1)エ)		【態】進んで第4学年までに配当されている漢字を読み、これまでの学習をいかして、漢字や熟語を正しく読んだり書いたりしようとしている。
漢字の広場⑤	2	◎第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)	【知・技】第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ)	【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ)	【態】進んで第3学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、文を書こうとしている。
風船でうちゅうへ	8	◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。(思・判・表C(1)オ) ◎文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。(思・判・表C(1)カ) ◎様子や行動を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)	【知・技】 ・様子や行動を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。((1)オ) ・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(1)カ)	【態】進んで、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習課題に沿って、要約して紹介する文章を書こうとしている。
つながりに気をつけよう	4	◎主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割について理解することができる。(知・技(1)カ) ◎間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)	【知・技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割について理解している。((1)カ)	【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ)	【態】進んで、主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割について理解し、これまでの学習をいかして、つながりに気をつけて文章を書こうとしている。

心が動いたことを言葉に	7	◎書こうとしたことが明確になっているかなど、詩に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)オ) ○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や詩の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、連の役割について理解することができる。(知・技(1)カ)	【知・技】 ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や詩の中で使い、語彙を豊かにしている。((1)オ) ・主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、連の役割について理解している。((1)カ)	【思・判・表】「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、詩に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)オ)	【態】進んで感想を伝え合い、これまでの学習をいかして、心が動いたことを言葉にして書いた詩を読み合っている。
調べて話そう、生活調査隊	8	◎相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話することができる。(知・技(1)イ) ◎目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア) ◎話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ) ○考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ○相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができる。	【知・技】 ・相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。((1)イ) ・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)	【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えている。(A(1)イ) ・「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。(A(1)ウ)	【態】進んで、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫し、これまでの学習をいかして、調査の報告をしようとしている。
スワンレイクのほとりで	7	◎文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。(思・判・表C(1)カ) ○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ)	【知・技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。((1)オ)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(1)カ)	【態】進んで一人一人の感じ方に違いがあることに気づき、学習の見通しをもって、物語を読んで考えたことを伝え合おうとしている。

漢字の広場⑥	2	◎第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)	【知・技】第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ)	【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。(B(1)エ)	【態】進んで第3学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、文を書こうとしている。
四年生をふり返って	1	○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)	【知・技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。((1)ア)	【思・判・表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	【態】進んで経験したことなどから書くことを選び、学習課題に沿って1年間の振り返りを書こうとしている。

教科	国語	学年	第5学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ひみつの言葉を引き出そう	1	○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア) ○話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができる。(思・判・表A(1)エ)	【知・技】言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。((1)ア)	【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えている。(A(1)エ)	【態】進んで自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉え、学習の見通しをもって友達から「ひみつの言葉」を引き出せるように話そうとしている。
かんがえるのって おもしろい	1	◎詩を音読することができる。(知・技(1)ケ) ○詩を読んでまとめた感想を共有し、自分の考えを広げることができる。(思・判・表C(1)カ)	【知・技】詩を音読している。((1)ケ)	【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んでまとめた感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ)	【態】進んで詩を音読し、学習課題に沿って想像したことを伝え合おうとしている。
名前を使って、自己しょうかい	1	○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開について理解することができる。(知・技(1)カ) ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。(思・判・表B(1)ア) ○文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)カ)	【知・技】 ・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。((1)ア) ・文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開について理解している。((1)カ)	【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。(B(1)ア) ・「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)カ)	【態】積極的に文章の構成や展開について理解し、これまでの学習をいかして自分を紹介する文章を書こうとしている。

銀色の裏地	5	◎比喻や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク) ◎登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ○情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ■印象に残ったことを伝え合う。	【知・技】 ・比喻や反復などの表現の工夫に気づいている。((1)ク) ・情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。((2)イ)	【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ)	【態】粘り強く登場人物の相互関係や心情を捉え、学習の見通しをもって印象に残ったことを伝え合おうとしている。
図書館を使いこなそう	1	◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ) ■本を探して、記録カードを書く。	【知・技】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。((3)オ)		【態】進んで読書が自分の考えを広げることに役立つことに気づき、これまでの学習をいかして本を探して、記録カードを書こうとしている。
漢字の成り立ち	2	◎漢字の由来、特質などについて理解することができる。(知・技(3)ウ)	【知・技】漢字の由来、特質などについて理解している。((3)ウ)		【態】進んで漢字の由来、特質などに関心をもち、学習課題に沿ってそれらを理解しようとしている。
春の空	1	◎親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア) ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ) ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。(思・判・表B(1)ア)	【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。((1)オ) ・親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。((3)ア)	【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。(B(1)ア)	【態】積極的に言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って春らしいものや様子を文章に書こうとしている。

きいて、きいて、きいてみよう	6	◎情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)エ) ○話し言葉と書き言葉との違いに気づくことができる。(知・技(1)イ) ○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア)	【知・技】 ・話し言葉と書き言葉との違いに気づいている。((1)イ) ・情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。((2)イ)	【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A(1)エ)	【態】粘り強く話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉え、学習の見通しをもってインタビューをしたり、報告したりしようとしている。
見立てる 言葉の意味が分かること	7	◎原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア) ○文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ) ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表C(1)オ)	【知・技】 ・文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。((1)カ) ・原因と結果など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C(1)ア) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ)	【態】粘り強く文章全体の構成を捉えて要旨を把握し、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
敬語	2	◎日常よく使われる敬語を理解し使い慣れることができる。(知・技(1)キ) ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)	【知・技】 ・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。((1)ア) ・日常よく使われる敬語を理解し使い慣れている。((1)キ)		【態】進んで日常よく使われる敬語について理解し、学習課題に沿って使い慣れようとしている。

日常を十七音で	3	◎比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク) ◎俳句の構成や書き表し方などに着目して、俳句を整えることができる。(思・判・表B(1)オ) ○俳句の中で漢字と仮名を適切に使い分けすることができる。(知・技(1)ウ) ○目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)	【知・技】 ・俳句の中で漢字と仮名を適切に使い分けている。((1)ウ) ・比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。((1)ク)	【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ・「書くこと」において、俳句の構成や書き表し方などに着目して、俳句を整えている。(B(1)オ)	【態】粘り強く構成や書き表し方などに着目して文言を整え、学習の見通しをもって俳句を作ろうとしている。
漢字の広場①	1	◎第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)オ)	【知・技】第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ)	【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ)	【態】進んで第4学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
古典の世界(一)	2	◎親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア) ○古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。(知・技(3)イ)	【知・技】 ・親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。((3)ア) ・古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知っている。((3)イ)		【態】進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って古文を音読しようとしている。
【情報】目的に応じて引用するとき	2	◎引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)エ) ○情報と情報との関係づけのしかたを理解し使うことができる。(知・技(2)イ)	【知・技】情報と情報との関係づけのしかたを理解使っている。((2)イ)	【思・判・表】「書くこと」において、引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)エ)	【態】進んで目的に応じた引用のしかたを理解し、学習課題に沿って引用カードを書こうとしている。

みんなが使いやすいデザイン	8	◎目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ○情報と情報との関係づけのしかたを理解し使うことができる。(知・技(2)イ)	【知・技】情報と情報との関係づけのしかたを理解し使っている。((2)イ)	【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	【態】粘り強く目的や意図に応じて集めた材料を分類したり関係づけたりし、学習の見通しをもって報告する文章を書くとしている。
同じ読み方の漢字	2	◎第5学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)	【知・技】第5学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。((1)エ)		【態】進んで同じ読み方の漢字の使い分けに関心を持ち、これまでの学習をいかしてそれらを理解しようとしている。
夏の夜	1	◎親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア) ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ) ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。(思・判・表B(1)ア)	【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。((1)オ) ・親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。((3)ア)	【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。(B(1)ア)	【態】積極的に言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って夏らしいものや様子を文章に書こうとしている。
作家で広げるわたしたちの読書 モモ	5	◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ) ○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。(思・判・表C(1)カ)	【知・技】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。((3)オ)	【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ)	【態】積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって本の魅力を伝え合おうとしている。

かぼちゃのつるが われは草なり	2	◎比喻や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク) ○詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。(思・判・表C(1)エ)	【知・技】比喻や反復などの表現の工夫に気づいている。((1)ク)	【思・判・表】「読むこと」において、詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ)	【態】進んで比喻や反復などの表現の工夫に気づき、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
どちらを選びますか	2	◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。(知・技(1)オ) ◎互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。(思・判・表A(1)オ)	【知・技】思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使っている。((1)オ)	【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(A(1)オ)	【態】積極的に互いの立場を明確にして、これまでの学習をいかして立場に分かれて話し合おうとしている。
新聞を読もう	2	◎目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。(思・判・表C(1)ウ) ○文章の構成や、文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ) ○事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア)	【知・技】文章の構成や、文章の種類とその特徴について理解している。((1)カ)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C(1)ア) ・「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。(C(1)ウ)	【態】進んで必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりし、学習課題に沿って新聞記事を読もうとしている。
文章に説得力をもたせるには	2	◎筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。(思・判・表B(1)イ) ○文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ)	【知・技】文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。((1)カ)	【思・判・表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B(1)イ)	【態】積極的に筋道の通った文章となるように文章全体の構成や展開を考え、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしている。

漢字の広場②	1	◎第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)オ)	【知・技】第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ)	【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ)	【態】進んで第4学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
たずねびと	6	◎人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。(思・判・表C(1)エ) ○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク)	【知・技】比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。(知・技(1)ク)	【思・判・表】「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ)	【態】粘り強く物語の全体像を具体的に想像し、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしている。
漢字の広場③	1	◎第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)オ)	【知・技】第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ)	【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ)	【態】進んで第4学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
方言と共通語	2	◎共通語と方言との違いを理解することができる。(知・技(3)ウ)	【知・技】共通語と方言との違いを理解している。((3)ウ)		【態】進んで方言と共通語の違いに関心を持ち、学習課題に沿ってそれらを理解しようとしている。

秋の夕	1	◎親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア) ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ) ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。(思・判・表B(1)ア)	【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。((1)オ) ・親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。((3)ア)	【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。(B(1)ア)	【態】積極的に言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って秋らしいものや様子を文章に書こうとしている。
よりよい学校生活のために 【コラム】意見が対立したときには	6	◎情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア) ◎互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。(思・判・表A(1)オ) ○思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。(知・技(3)イ)	【知・技】 ・思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使っている。((1)オ) ・情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。((2)イ)	【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(A(1)オ)	【態】粘り強く互いの立場や意図を明確にしながら、学習の見通しをもって身の回りの問題を解決するために話し合おうとしている。
浦島太郎——「御伽草子」より	1	◎古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。(知・技(3)イ) ○親しみやすい古文の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア) ○時間の経過による言葉の変化に気づくことができる。(知・技(3)ウ)	【知・技】 ・親しみやすい古文の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。((3)ア) ・古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知っている。((3)イ) ・時間の経過による言葉の変化に気づいている。((3)ウ)		【態】進んで昔の人のものの見方や感じ方を知り、学習課題に沿って古典の文章について思ったことを話そうとしている。
和語・漢語・外来語	2	◎語句の由来などに関心をもつとともに、世代による言葉の違いに気づくことができる。(知・技(3)ウ) ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ)	【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。((1)オ) ・語句の由来などに関心をもつとともに、世代による言葉の違いに気づいている。((3)ウ)		【態】進んで和語・漢語・外来語などの由来に関心を持ち、学習課題に沿ってそれらを理解しようとしている。

固有種が教えてくれること 自然環境を守るために 【コラム】統計資料の読み方	10	◎原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎引用したり、図表やグラフを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)エ) ◎目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。(思・判・表C(1)ウ) ○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ) ○事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア)	【知・技】 ・原因と結果など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) ・日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。((3)オ)	【思・判・表】 ・「書くこと」において、引用したり、図表やグラフを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)エ) ・「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C(1)ア) ・「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。(C(1)ウ)	【態】粘り強く文章と図表などを結び付けて読み、学習の見通しをもって、読み取った筆者の工夫をいかして統計資料を用いた意見文を書こうとしている。
カンジー博士の暗号解読	2	◎第5学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)	【知・技】第5学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。((1)エ)		【態】進んで漢字の読み方に興味をもち、これまでの学習をいかして漸次書こうとしている。
古典の世界(二)	1	◎親しみやすい漢文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア) ○作品の内容の大体を知ることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。(知・技(3)イ)	【知・技】 ・親しみやすい漢文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。((3)ア) ・作品の内容の大体を知ることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知っている。((3)イ)		【態】進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って漢文を音読しようとしている。

漢字の広場④	1	◎第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)オ)	【知・技】第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)	【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ)	【態】進んで第4学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
やなせたかし——アンパンマンの勇気	5	◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気づくことができる。(知・技(3)オ) ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表C(1)オ) ○登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。(思・判・表C(1)イ)	【知・技】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気づいている。((3)オ)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ)	【態】積極的に文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、学習課題に沿って考えたことを交流しようとしている。
あなたは、どう考える	6	◎語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ) ◎文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)カ) ○文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ) ○目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くことで、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)	【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ) ・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ)	【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くことで、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ・「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)カ)	【態】積極的に文章に対する感想や意見を伝え合い、学習の見通しをもって意見文を書こうとしている。
冬の朝	1	◎親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア) ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ) ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。(思・判・表B(1)ア)	【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ) ・親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア)	【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。(B(1)ア)	【態】積極的に言葉の響きやリズムに親しみ、学習の課題に沿って冬らしいものや様子を文章に書こうとしている。

好きな詩のよさを伝えよう	2	○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク) ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。(思・判・表B(1)ア) ○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。(思・判・表C(1)カ)	【知・技】比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。((1)ク)	【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。(B(1)ア) ・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ)	【態】積極的に詩を読んでまとめた感想を共有し、学習課題に沿って詩を紹介しようとしている。
言葉でスケッチ	2	◎目的や意図に応じて事実と感想とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク)	【知・技】比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。((1)ク)	【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて事実と感想とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	【態】粘り強く自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習課題に沿って情景が伝わるように書こうとしている。
熟語の読み方	2	◎第5学年までに配当されている漢字を読むことができる。(知・技(1)エ)	【知・技】第5学年までに配当されている漢字を読んでいる。((1)エ)		【態】進んで熟語の読み方に興味をもち、学習課題に沿ってそれらを理解しようとしている。
漢字の広場⑤	1	◎第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)オ)	【知・技】第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ)	【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ)	【態】進んで第4学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。

想像力のスイッチを入れよう	6	◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表C(1)オ) ○文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ) ○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。(思・判・表C(1)カ)	【知・技】文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。((1)カ)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ) ・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ)	【態】積極的に文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、学習の見通しをもってメディアとの関わり方について話し合おうとしている。
複合語	2	◎語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)	【知・技】語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。((1)オ)		【態】進んで複合語の構成や変化について関心をもち、学習課題に沿ってそれらを理解しようとしている。
言葉を使い分けよう	3	○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ) ○目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)	【知・技】 ・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。((1)ア) ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。((1)オ)	【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	【態】積極的に語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習課題に沿って手紙を書こうとしている。
もう一つの物語	6	◎話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ) ◎筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。(思・判・表B(1)イ)	【知・技】話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。((1)カ)	【思・判・表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B(1)イ)	【態】粘り強く文章全体の構成や展開を考え、学習の見通しをもって物語を書くようとしている。

「子ども未来科」で何をする	6	◎話し言葉と書き言葉との違いに気づくことができる。(知・技(1)イ) ◎話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えることができる。(思・判・表A(1)イ) ○文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ) ○資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ)	【知・技】 ・話し言葉と書き言葉との違いに気づいている。((1)イ) ・文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。((1)カ)	【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えている。(A(1)イ) ・「話すこと・聞くこと」において、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ)	【態】粘り強く話の構成を考え、学習の見通しをもって提案するスピーチをしようとしている。
大造じいさんとガン	6	◎文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。(思・判・表C(1)カ) ○比喻や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク) ○文章を音読したり朗読したりすることができる。(知・技(1)ケ) ○人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。(思・判・表C(1)エ)	【知・技】 ・比喻や反復などの表現の工夫に気づいている。((1)ク) ・文章を音読したり朗読したりしている。((1)ケ)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ) ・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ)	【態】積極的に意見や感想を共有し、学習の見通しをもって物語の魅力を伝え合おうとしている。
漢字の広場⑥	1	◎第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)オ)	【知・技】第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ)	【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ)	【態】進んで第4学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
五年生をふり返って	1	○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。(思・判・表B(1)ア)	【知・技】言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。((1)ア)	【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。(B(1)ア)	【態】進んで考えたことなどから書くことを選び、学習課題に沿って1年間の振り返りを書こうとしている。

教科	国語	学年	第6学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
つないで、つないで、一つのお話	1	◎自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)エ) ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ■グループで一人1文ずつつないで、一つのまとまった話を作る。 ☆よりよい人間関係の形成に関する題材(特別活動)	【知・技】言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。((1)ア)	【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、自分の考えをまとめている。(A(1)エ)	【態】進んで話の内容を捉えながら相手の話を聞き、これまでの学習をいかしてお話作りに取り組もうとしている。
準備	1	○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク) ○文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)カ) ■文章を読み合い、紹介されている食べ物を当て合う。 ☆食生活への関心を高める題材(家庭科)	【知・技】比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。((1)ク)	【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)カ)	【態】積極的に表現を工夫し、これまでの学習をいかして互いの文章を読み合おうとしている。
伝わるかな、好きな食べ物続けてみよう	1	【知・技】比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。((1)ク)	【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)カ)	【態】積極的に表現を工夫し、これまでの学習をいかして互いの文章を読み合おうとしている。	進んで言葉の意味を考え、学習の見通しをもって音読しようとしている。

帰り道	5	◎文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)力) ◎登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク) ■物語を読み、印象に残ったことについて考えをまとめ、伝え合う。 ☆友情や信頼、相互理解や寛容に関する題材(道徳)	【知・技】 ・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。((1)力) ・比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。((1)ク)	【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ)	【態】進んで登場人物の相互関係や心情などについて描写を基に捉え、学習の見通しをもって印象に残ったことについて考えを伝え合おうとしている。
◆公共図書館を活用しよう	1	【知・技】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げること役立つことに気づいている。((3)オ)		【態】進んで公共図書館の役割や特徴について知り、学習課題に沿って利用してみたいものや本の記録のしかたについて考えようとしている。	進んで語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習の見通しをもって『枕草子』ふうの文章を書こうとしている。
漢字の形と音・意味	2	◎漢字の由来、特質などについて理解することができる。(知・技(3)ウ) ○第6学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)	【知・技】 ・第6学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) ・漢字の由来、特質などについて理解している。((3)ウ)		【態】進んで漢字の由来、特質などについて理解し、これまでの学習をいかして漢字を文や文章の中で使おうとしている。

春のいぶき	1	◎語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ) ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ■身の回りで感じた「春」を、俳句や短歌に表す。 ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深め、尊重する態度を養う題材(社会、道徳)	【知・技】語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。((1)オ)	【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	【態】積極的に季節を表す語彙を豊かにし、これまでの学習をいかして俳句や短歌を作ろうとしている。
聞いて、考えを深めよう	6	◎語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ) ◎話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)エ) ○日常よく使われる敬語を理解し使い慣れることができる。(知・技(1)キ) ■インタビューをする。 ☆よりよい学校生活、集団生活の充実に関する題材(道徳) ☆礼儀や敬語が円滑な人とのつながりをつくることを実感する活動(道徳) ☆インタビューを通して必要な情報を集め、自分の考えを深める教材(社会、総合的な学習の時間) ☆ICレコーダーなどの機器によるインタビューの録音(ICT活用)	【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。((1)オ) ・日常よく使われる敬語を理解し使い慣れている。((1)キ)	【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A(1)エ)	【態】進んで話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉え、学習課題に沿ってインタビューをしようとしている。

漢字の広場①	1	◎第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)オ) ■絵の中の出来事を伝える記事を書く	【知・技】第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)	【思・判・表】「書くこと」において、書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ)	【態】積極的に第5学年までに配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして記事を書こうとしている。
笑うから楽しい 時計の時間と心の時間	7	■主張を述べた文章を読み、自分の考えを伝え合う。	【知・技】 ・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。(1)力) ・原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C(1)ア) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ)	【態】進んで事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、学習課題に沿って自分の考えを伝え合おうとしている。
文の組み立て	2	◎文の中での語句の係り方や語順について理解することができる。(知・技(1)力)	【知・技】文の中での語句の係り方や語順について理解している。(1)力)		【態】進んで文の中での語句の係り方や語順について理解し、これまでの学習をいかして設問に取り組もうとしている。
たのしみは	3	◎短歌に対する感想や意見を伝え合い、自分の作品のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)力) ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ) ○語句の係り方や語順、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)力) ○自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■日常の中の楽しみや喜びを短歌に表す。 ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深め、尊重する態度を養う題材(社会、道徳)	【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ) ・語句の係り方や語順、話や文章の種類とその特徴について理解している。(1)力)	【思・判・表】 ・「書くこと」において、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ・「書くこと」において、短歌に対する感想や意見を伝え合い、自分の作品のよいところを見つけている。(B(1)力)	【態】学習の見通しをもって短歌を作り、積極的に短歌に対する感想や意見を伝え合おうとしている。

天地の文	1	◎近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親むことができる。(知・技(3)ア) ○古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。(知・技(3)イ) ■文語調の文章を音読する。 ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深め、尊重する態度を養う題材(社会、道德)	【知・技】 ・近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親んでいる。((3)ア)	・古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知っている。((3)イ)	【態】進んで言葉の響きやリズムに親しみ、これまでの学習をいかして音読しようとしている。
◆情報と情報をつなげて伝えるとき	2	◎情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ○目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ■条件に即して、報告書を書き直す。 ☆調べた情報を整理して伝える方法を学ぶ教材(理科、社会、総合的な学習の時間)	【知・技】情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。((2)イ)	【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	【態】進んで情報と情報との関係づけのしかたについて理解を深め、学習課題に沿って報告書を書き直そうとしている。
◆デジタル機器と私たち	8	◎原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。(思・判・表B(1)イ) ○文と文との接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ) ■考えたことや伝えたいことを基に提案する文章を書く。 ☆デジタル機器への関心を高める題材(ICT活用)	【知・技】 ・文と文との接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。((1)カ) ・原因と結果など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)	【思・判・表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B(1)イ)	【態】積極的に文章全体の構成や展開を考え、学習の見通しをもって提案する文章を書こうとしている。

夏のさかり	1	◎語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ) ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ■季節を感じる語句を使って、手紙を書く。	【知・技】語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ)	【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	【態】積極的に季節を表す語彙を豊かにし、これまでの学習をいかして手紙を書こうとしている。
私と本	5	◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ) ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表C(1)オ) ○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。(思・判・表C(1)カ) ■テーマに沿って読んだ本を紹介するブックトークを行う。	【知・技】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。((3)オ)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ) ・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ)	【態】進んで読書が自分の考えを広げることに役立つことに気づき、これまでの学習をいかしてブックトークをしようとしている。
せんねん まんねん 名づけられた葉	2	■詩を読み、考えたことを伝え合う。	【知・技】原因と結果など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)	【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(A(1)オ)ウ)	【態】積極的に考えを広げ、学習課題に沿って考えを尋ね合おうとしている。
いちばん大事なものは	2	■メンバーを替えながら、グループで考えを尋ね合う。	【知・技】原因と結果など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)	【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(A(1)オ)	【態】積極的に考えを広げ、学習課題に沿って考えを尋ね合おうとしている。

◆インターネットでニュースを読もう	3	■ニュースサイトと新聞を比較して読む。	【知・技】文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。((1)カ)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけている。(C(1)ウ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ)	【態】進んでニュースサイトの特徴を理解し、これまでの学習をいかしてニュースサイトと新聞を比較して読もうとしている。
▲文章を推敲しよう	2	■文章を推敲する。	【知・技】文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開について理解している。((1)カ)	【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ)	【態】進んで文章全体の構成や書き表し方などに着目し、学習課題に沿って文章を推敲しようとしている。
漢字の広場②	1	■絵の中の人々の行動を説明する文章を書く。	【知・技】第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ)	【思・判・表】「書くこと」において、書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ)	【態】積極的に第5学年までに配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして文章を書こうとしている。
やまなし	8	■物語と資料を重ねて読み、作品世界について考えたことを書いて、伝え合う。	【知・技】 ・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。((1)カ) ・比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。((1)ク)	【思・判・表】「読むこと」において、物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ)	【態】粘り強く物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりし、学習の見通しをもって作品世界について考えたことを書き、伝え合おうとしている。

言葉の広場③	1	■絵を基に、冒険物語を書く。	【知・技】第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ)	【思・判・表】「書くこと」において、書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ)	【態】積極的に第5学年までに配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして物語を書こうとしている。
熟語の成り立ち	1	◎語句の構成や変化について理解することができる。	【知・技】第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ)	【思・判・表】「書くこと」において、書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ)	【態】積極的に第5学年までに配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして物語を書こうとしている。
漢字の広場③	1	△絵を見て想像したことを基に、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く。	前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。	「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。	積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。
秋の深まり	1	■身の回りで感じた「秋」を、俳句や短歌に表す。	【知・技】語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。((1)オ)	【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	【態度】積極的に上巻の教科書での国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、今までの学習を生かして計画的に学習しようとしている。

みんなで楽しく過ごすために	8	◎思考に関わる語句の量を増し、話の中で使うことができる。(知・技(1)オ) ◎互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。(思・判・表A(1)オ) ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア) ■目的や条件に応じて話し合う。 ☆学校における多様な集団の生活の向上に関する題材(特別活動) ☆親切や思いやり、相互理解や寛容に関する題材(道徳)	【知・技】 ・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。((1)ア) ・思考に関わる語句の量を増し、話の中で使っている。((1)オ)	【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(A(1)オ)	【態】粘り強く考えを広げたりまとめたりし、学習の見通しをもって話し合おうとしている。
古典芸能の世界 狂言「柿山伏」を楽しもう	2	◎古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。(知・技(3)イ) ○親しみやすい古典芸能の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア)	【知・技】 ・親しみやすい古典芸能の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。((3)ア) ・古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知っている。((3)イ)		【態】進んで昔の人のものの見方や感じ方を知り、これまでの学習をいかして「柿山伏」を音読したり演じたりしようとしている。
『鳥獣戯画』を読む 発見、日本文化のみりよく	10	■学校図書館などを利用し、日本文化について調べたことや、それに対する考えを文章に表す。	【知・技】 ・比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。((1)ク) ・日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。((3)オ)	【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ・「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C(1)ア) ・「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。(C(1)ウ)	【態】粘り強く論の進め方について考えたり、書き表し方を工夫したりし、学習の見通しをもって日本文化のよさを伝える文章を書こうとしている。

漢字の広場④ 音を表す部分	1	△形成文字について、音と意味、成り立ちも含めて理解する。	語句の由来などに関心をもっていると ともに、時間の経過による言葉の変化 や世代による言葉の違いに気付き、共 通語と方言との違いを理解している。 また、仮名及び漢字の由来、特質など について理解している。		積極的に前学年や当該学年で配当さ れている漢字を文や文章の中で使い、 学習の見通しをもって形成文字につい て、音と意味、成り立ちも含めて理解 し、使い分けようとしている。
カンジー博士の漢字学習の秘伝	2	【知・技】 ・文や文章の中で漢字と仮名を適切に 使い分けるとともに、送り仮名や仮名 遣いに注意して正しく書いている。((1) ウ) ・第6学年までに配当されている漢字 を読むとともに、漸次書き、文や文章 の中で使っている。((1)エ)	【知・技】 ・文や文章の中で漢字と仮名を適切に 使い分けるとともに、送り仮名や仮名 遣いに注意して正しく書いている。((1) ウ) ・第6学年までに配当されている漢字 を読むとともに、漸次書き、文や文章 の中で使っている。((1)エ)		【態】工夫して漢字学習を行うことに進 んで取り組み、これまでの学習をいか して漢字を正しく書こうとしている。
漢字の広場④	1	■絵の中の出来事などを説明する文 章を書く。	【知・技】第5学年までに配当されてい る漢字を書き、文や文章の中で使っ ている。((1)エ)	【思・判・表】「書くこと」において、書き 表し方などに着目して、文や文章を整 えている。(B(1)オ)	【態】積極的に第5学年までに配当され ている漢字を使い、これまでの学習を いかして文章を書こうとしている。
ぼくのブック・ウーマン	4	■物語を読んで考えたことを、自分の 生活や読書経験と結び付けてまとめ、 語り合う。	【知・技】日常的に読書に親しみ、読書 が、自分の考えを広げることに役立つ ことに気づいている。((3)オ)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、人物像や物語 などの全体像を具体的に想像してい る。(C(1)エ) ・「読むこと」において、文章を読んで理 解したことに基づいて、自分の考えを まとめている。(C(1)オ)	【態】進んで文章を読んで理解したこと に基づいて自分の考えをまとめ、学習 課題に沿って考えたことを伝え合おう としている。

◆おすすめパンフレットを作ろう	6	■推薦したいものを、パンフレットにまとめる。	【知・技】 ・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。((1)ア) ・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。((1)カ)	【思・判・表】「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)エ)	【態】進んで引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって推薦したいものをパンフレットにまとめようとしている。
冬のおとずれ	1	■季節を感じる語句を使って、手紙を書く	■季節を感じる語句を使って、手紙を書く	【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	【態】積極的に季節を表す語彙を豊かにし、これまでの学習をいかして手紙を書こうとしている。
詩を朗読しようかいしよう	2	○詩を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。(	【知・技】 ・詩を朗読している。((1)ケ) ・日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気づいている。((3)オ)	【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ)	【態】進んで詩を朗読し、これまでの学習をいかしてお気に入りの詩を紹介しようとしている。
知ってほしい、この名言	2	◎情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。	【知・技】情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。((2)イ)	【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	【態】進んで集めた材料を分類したり関係づけたりし、学習課題に沿って名言を紹介しようとしている。

日本の文字文化	2	◎文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くことができる。	【知・技】 ・文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。((1)ウ) ・語句の由来などに関心をもち、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。((3)ウ)		【態】進んで仮名及び漢字の由来、特質などについて理解し、これまでの学習をいかして適切な表記を考えようとしている。
漢字の広場⑤	1	■絵の中の様子を説明する文章を書く。	【知・技】第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ)	【思・判・表】「書くこと」において、書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ)	【態】積極的に第5学年までに配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして文章を書こうとしている。
「考える」とは	6	◎文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。	【知・技】 ・思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使っている。((1)オ) ・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。((1)カ)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ) ・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ)	【態】粘り強く文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
使える言葉にするために	1	◎第6学年までに配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。	【知・技】第6学年までに配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。((1)エ)		【態】進んで第6学年までに配当されている漢字を読み、これまでの学習をいかして、読み方や意味が分からない言葉を辞書で調べようとしている。
日本語の特徴	3	■日本語の特徴を紹介する文章を書く。	【知・技】 ・語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。((1)オ) ・文の中での語句の係り方や語順について理解している。((1)カ)	【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	【態】進んで日本語の特徴について理解を深め、学習課題に沿って日本語の特徴を紹介する文章を書こうとしている。している。

大切にしたい言葉	6	■大切にしたい言葉に対する思いを書く。	【知・技】語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。((1)オ)	【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	【態】積極的に自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって大切にしたい言葉に対する思いを書こうとしている。
今、私は、ぼくは	6	■自分の思いや考えを伝えるスピーチをする。	【知・技】 ・話し言葉と書き言葉との違いに気づいている。((1)イ) ・日常よく使われる敬語を理解し使い慣れている。((1)キ)	【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えている。(A(1)イ) ・「話すこと・聞くこと」において、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ)	【態】積極的に資料を活用するなどして自分の考えが伝わるように表現を工夫し、学習の見通しをもって自分の思いや考えを伝えるスピーチをしようとしている。
海の命	6	○人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。	【知・技】比喻や反復などの表現の工夫に気づいている。((1)ク) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ)	【思・判・表】 ・「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ) ・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ)	【態】積極的に文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、学習の見通しをもってそれぞれの人物の生き方に対する考えを話し合おうとしている。
漢字の広場⑥	1	■絵の中のさまざまな場面の様子を想像して、文章を書く。	【知・技】第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ)	【思・判・表】「書くこと」において、書き表	【態】積極的に第5学年までに配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして文章を書こうとしている。
中学校へつなげよう 生きる 人間は他の生物と何がちがうのか	4	■詩と文章を読んで、感じたことを伝え合ったり、考えをまとめたりする。	【知・技】 ・比喻や反復などの表現の工夫に気づいている。((1)ク) ・詩を朗読している。((1)ケ)	【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ) ・「読むこと」において、詩を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ)	【態】積極的に6年間の国語学習を振り返り、これまでの学習をいかして、詩を読んで感じたことを伝え合ったり、文章に対する自分の考えをまとめたりしようとしている。